

避難所運営ゲーム(HUG)を主とした防災訓練を行い、20町内会から60名の参加がありました。

南区役所総務課から、阪神淡路大震災と中越地震時の避難所の状態の説明があり、具体的にHUGを通して考えてほしいことが伝えられました。保健センターからは、災害時の健康管理について、消防署からはAEDの使い方の講習がありました。体育館の床の冷たさも含め、避難所を具体的にイメージできた訓練でした。



▲南区役所総務課の講話

7つの班に分かれて 説明を聞く



▲20の町内会を6つの班に分け、諸団体の役員の班も加えた7つの班でHUGを行いました。初めて取り組む方も多いため、総務課から丁寧な説明がありました。

グループごとに HUGに取り組む



▲見取り図を使いながら、体育館のレイアウトや特活室、校庭などの使い方を話し合いで決めていきました。避難者の配置も難しく、ゲームを通じて避難所運営の難しさを体験しました。

全員が体験 AED講習会



▲消防署・消防団によりAED講習会が行われました。3台を使い、AEDの使い方と心臓マッサージのやり方を全員が体験しました。AEDの場所が確認できるサイト(日本全国AEDマップ)が紹介され、スマホを出して確認していました。

参加者の声

- ・イベントカードの内容が予想を超えていたので、いろいろな気づきがありました。
- ・正解があるわけではないので、話し合っても結論が出ない。現実になったら恐ろしい。
- ・みんなが避難してきたら体育館がいっぱいになってしまう。事前に区割りを話し合っておいたほうがよいと思いました。

主催者の声

- ・避難所の開設・受付・運営の流れを皆さんに理解しておいてほしい。事前に決めておいても、災害時は人も物もどうなるか分からないから、地域の対応力を上げておく必要があります。
- ・避難所で感染症が増えると重症化しやすい。手洗い・うがい、マスクの着用などの衛生ケアやトイレの使い方などについても、事前に訓練で確認しておくことが必要ですね。